

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おはなし屋療育園		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○訪問先施設評価実施期間			年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育園との併設の事業所のため、インクルーシブな環境での支援を展開できること。	<ul style="list-style-type: none"> 交流給食の設定 主活動の前に一緒に体操をする時間を設定する 合同行事の計画 (遠足、ICT教材を使った活動、秋祭り、クリスマス会など) 感触あそび、クッキングなど合同で体験できる活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園とのミーティングを定期的に行い、活動内容を検討し新たな企画にも積極的に挑戦していく。 意図的に環境設定することで、子ども自身が「今日はこっちで遊びたい」など居場所を選択したことを自ら発信し、それに柔軟に対応できるような職員同士の協力体制を整えている。
2	栄養バランスの整った給食を提供できること。	<ul style="list-style-type: none"> 苦手な食材もまずはひとくち食べてみる経験を積み重ね、自分の好き、嫌いを知り発信する力もつけていけるよう食事の際に支援する。 おかわりができる体制を整え楽しく食事ができる環境を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食具の使い方から、個々の課題をタイムリーに把握する 保育園との交流給食、給食の先生と一緒に食べる日を作りバランスのいい食事を食べること、楽しく食べる環境が成長に大きく影響することを保護者へ発信していく。
3	保育士が保育園、療育園両方の支援に入ること、子どもが特定の大人だけではなく様々な人とかかわる社会性を高めることができる。また保育士も全員を把握することでだれが現場に入っても共通の理解のもと支援できる体制がとれる。	<ul style="list-style-type: none"> 専従の職員以外は、日々入れ替わるシフトを組み、敢えて固定させず、様々な大人とかわる環境設定をしている。 全ての保育士がいつ支援に入っても対応できるよう、会社独自のツールを使い情報共有をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの目で子どもを見れる環境を活かし、気づいたこと(いい事・ヒヤリハット)の報告、共有も大事にし、さらにチームの連携を深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通常の支援で小集団の療育、個々の課題に対するトレーニングは行っているが、専門的支援実施にまで至らなかったこと。	R7年度実施を目標としていたが、1日定員人数が増えたことへの対応と、集団療育に力を入れる方向ですすめてきたため、専門的支援は、正式な段階をへての形にまでもっていきることができなかった。	R8年度は、特に就学に向けて課題が出てくる年長児からスタートすることを目標に、実践できる頻度で計画し、専門的支援実施の取り組みを定着させていく。その後、年齢や発達段階に合わせて計画をするなど通常の支援とのバランスを取りながら進めていく。専門的支援内容についての学びも職員間で研修などを通し深めていく。
2	子育てサポートの未実施。	参観日がないため、実際にどのように子どもが過ごしているか、見ていただく機会を設定できなかった。見学対応で常に感じるところが、保育者以外の大人が現場にすることで、気持ち不安定になる子どもが多いということ。現場を直接見ていただくことが現状としては難しい。	年に1回程度を目標に、それぞれの家庭に別室からタイムリーな現場をみて頂ける仕組みを作り、より子どもの現状や対応方法、課題など支援方針を共通理解のもと統一して実践できるよう工夫していく。
3	保護者同士の交流の場を作れなかったこと。	外部の情報案内にとどまり、事業所独自では実施できなかった。	アンケートから希望しているご意見もあることがわかった。他事業所での取り組みを調べるなどして、土曜日などの設定で年に1回でも計画して保護者同士が悩みを話せるような場を提供していきたい。